



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO・DOHO・ENGOKAI

同援だより

2021年

春季号 (186号)

● 主な内容 ●

東京都同胞援護会のコロナ対応
令和2年度永年勤続表彰
施設通信



コロナ禍を乗り越えて

理事長 飯山 幸雄

この一年、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、東京は二度の緊急事態宣言の対象地域とされました。三十に及ぶ施設と病院を経営する本会にとって、新型コロナウイルス感染症対策は事業運営上欠くべからざる重要事案となっています。

対策の概要をかいつまんで申し上げますと、まず全施設共通して、ご利用者・職員の検温実施等体調管理を厳重に行い、こまめな手洗い・手指の消毒、マスクの着用及び適宜な換気を徹底するとともに、納入業者の方々など来園者にもご協力をいただきました。入所施設では、ご利用者並びにご

家族には申し訳なく思いつつも、来園による対面の面会は制限し、パソコンの通信機能を生かしたりリモート面会を取り入れました。また、保育園等通所施設も含め、三密にならないよう、食事等の場面に注意を払うとともに、残念ながら各種の行事を以前の形で実施することは中止し、小規模かつ分散方式で行うようにいたしました。法人全体の会議、研修については、パソコンソフトによるリモート開催を推進し、できるだけ人の移動の抑制に努めました。

昭島病院においては新型コロナウイルス感染症に罹患された患者さんの入院をお受けしていますが、医療的な感染症予防対策を確立していますので、医師、看護師等職員は大きな負担を背負いつつ院内感染予防に万全を期しております。

これらの予防対策は日常的に行っているものなので職員は日々緊張の連続ですが、職責を全うするために懸命に頑張っております。そのため、本稿執筆時の二月末現在、施設においてクラスターは発生しておりません。本会の施設・医療サービスを必要とする皆さまには安心して、各施設、病院をご利用していただきたいと存じます。

さて、昨年の同援だより新年号におきまして、本会の事業運営の基本的考えとして「人を大切にする」ということを申し上げます。コロナ禍の現在、本会施設・病院をご利用される皆様を大切にしていきたいためには、まずサービスの担い手である職員を大切にしなければなりません。そのためには働きやすく安定した職場を守っていくことが必要だと考えております。施設長・院長と一丸となってコロナ禍に負けないよう施設・病院を運営していきたいと存じます。

ところで、新型コロナワクチンの接種が医療従事者等から始まりました。昭島病院においては、病院職員及び昭島郷内施設の「医療従事者等」に該当する職員への接種に続き、地元昭島市から要請されているワクチン接種事業へ協力していくこととなります。本稿が皆様のお目に触れるころにはどこまで進んでいるのでしょうか。一日も早く皆様への接種が行われることを期待いたします。

令和三年度は、コロナ禍が終息することを願いますが、終息まで新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、滞りなく事業を運営していく決意をしております。

結びに本会関係者の皆様をはじめ、総ての方々のご健勝を祈念申し上げます。

I 緊急事態宣言期間中の本会の対応

1. 事業所及び施設運営について

- (1) 基本的対処方針別添の「緊急事態宣言時に事業の継続を求められる事業者」における「2. 支援が必要な方々の保護の継続」を踏まえ、感染防止対策の徹底を前提に事業の継続を行う。
- (2) 通所施設等において利用者又は職員に複数の陽性者が発生した場合には区市や保健所と協議の上サービスの停止や休園等の措置をとる。
- (3) 入所施設等において利用者又は職員に陽性者が発生した場合には感染者の隔離、清潔・不潔区域などの設定（ゾーニング）と確実な防護服の着用、適切な職員配置となるよう必要な措置をとる。
- (4) 入所施設等第1種社会福祉事業において複数の職員の感染のため欠員が生じ、事業継続が困難となった場合には、通所施設等の第2種社会福祉事業の事業縮小又はサービスの一時停止をしたうえで入所施設等への職員派遣を行い入所施設等の事業継続を行う。
- (5) 職員の出勤については出勤者数を可能な限り削減又はローテーション勤務等とし、在宅勤務や自宅待機などの勤務を強力に推進する。（7割削減目標）
- (6) 職場においては感染防止のための取組（手洗いや手指消毒、咳エチケット、職員同士の距離確保、職場の換気励行、複数人が触る箇所の消毒、出勤前の検温を徹底し発熱等の症状が見られる職員の出勤自粛、出張による職員の移動を減らすためのオンライン会議の活用等）及び「三つの密」や大声、「感染リスクの高まる「5つの場面」」等を避ける取り組みを行う。

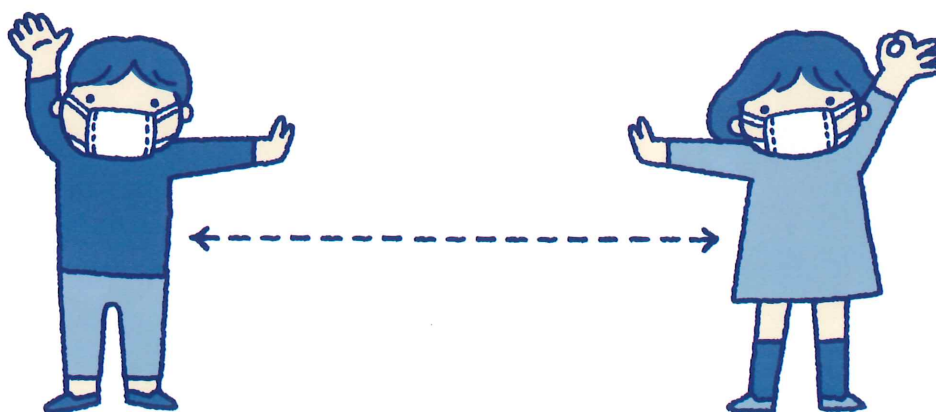
2. 施設内感染の徹底的防止

- (1) 職員等が感染源とならないよう、「三つの密」や大声、「感染リスクの高まる「5つの場面」」等を避ける取り組みを行う。
- (2) 症状がなくても利用者等と接する際にはマスクを着用する。（高齢者等リスクの高い利用者場合には不織布マスク又はフェイスシールドを使用する）
- (3) 手洗い・手指消毒の徹底を行う。
- (4) パソコンやエレベーターのボタン等複数の職員等が共有するものは定期的に消毒する。
- (5) 休憩室等でマスクを外して飲食をする場合、他の職員と一定の距離を保ち、原則として会話は行わないこと。
- (6) 職員は日々の体調を把握して少しでも調子が悪ければ自宅待機する等の対策に万全を期す。また当面は職員の施設内外での知人・友人との会食は原則行わないこととし、特に緊急事態宣言期間中は飲食店内での飲食も原則行わないよう心がける。
- (7) 高齢者施設等において、面会者からの感染を防ぐため、面会は地域における発生状況等も踏まえ、利用者・家族のQOLを考慮しつつ、緊急の場合を除き制限するなどの対応を検討する。
- (8) 利用者からの感染を防ぐため、利用者及び家族のQOLを考慮しつつ、短期入所や通所サービス等の一時利用を中止又は制限を検討する。
- (9) 利用者の外出、外泊を制限するなどの対応を検討する。
- (10) 入所施設の利用者で新型コロナウイルス感染症を疑った場合は、早急に個室隔離し、保健所の指導の下、感染対策を実施し、標準予防策、接触予防策、飛沫感染予防策を実施する。

会のコロナ対応

II 感染症の緊急事態が発生した場合の役割等について

- (1) 理事長は、感染症が発生又は発生のおそれがある際に、法人をあげた対応が必要である場合は、常務理事を感染症対応統括責任者とする緊急事態対応体制をとるものとする。
- (2) 常務理事は感染症の緊急事態が発生した場合又はその発生が予想される場合は、事務局内に緊急事態対策室を設置する。また複数の施設が所在する地域で緊急事態が発生した場合は、昭和郷地区又は東村山地区及び原町高齢者複合施設内に危機管理対策室を設置する。
- (3) 施設部長は感染症が発生した施設の情報の収集・確認・分析を行い、応急処置等対策基本方針を作成する。
- (4) 総務部長は感染症が発生した施設の職員体制を確認し、各グループ長に協力を要請するとともに、必要に応じ施設間の職員派遣等適切な措置を行う。また緊急事態対策室で決定された事項について速やかに各施設へ連絡するものとする。
- (5) 企画部長は感染症が発生した施設に対し、備品購入や職員確保のため等の資金確保等財務面での支援を積極的に行うものとする。またオンライン会議等を活用するため各施設とのオンラインシステム及び機材の整備を行う。
- (6) 各グループ長はグループ内施設での感染状況を把握し、施設部長とともにグループ内施設長に対し、必要な助言や支援等を行うとともに、総務部長と協議の上グループ内での職員派遣の調整を行うものとする。
- (7) 施設長は施設内の感染防止対策の責任者として職員に対し適切な指導と情報の提供を行うものとし、罹患者が発生した場合には施設内で感染が拡大することがないように保健所の指導のもと感染防止対策に講ずること。また緊急事態宣言期間中は職員の出勤数の削減に努めること。
- (8) 昭島病院は本会施設にて集団感染（クラスター）が発生した場合には医療的な助言や指導を行うとともに必要時には医療スタッフの派遣も行うなど協力する。
- (9) 事務局職員は施設職員が感染により欠員が生じた場合には消毒作業や補助業務などの間接業務等後方支援のために施設への派遣を行うものとする。



『コロナ禍でも楽しめる保育を…』

副主任 土井 美紗緒

4月、新年度がスタートし、私は年長の担任を受け持つこととなりました。子ども達にとって保育園最後の年、楽しい思い出をたくさん作りたいと思い巡らせていました。しかし、新型コロナウイルスの感染は3月より徐々に拡大し、ついに4月には緊急事態宣言により登園する子どもも半数以下となり、実態の分からないウイルスに不安な日々を送る事となりました。6月より子ども達も戻り始めましたが、園生活も一変しました。最初に子ども達に伝えたことは“手洗い・うがいをすること”“マスクをする”“友だちと距離をとる”“目鼻口を触らない”という4つの約束でした。子ども達は大人よりも直ぐに順応し、約束をしっかりと守っていました。しかし、その一方でマスクのせいか表情が乏しかったり、緊張した様子もありました。そして、私達保育士も、保育の中での目標を見失っていたように思います。

そのような中、“子ども達が年長としての目標を持ち、この状況の中でも楽しみながら力をつける方法はないか”と担任間で話し合い、保育に取り入れてきました。まず始めは、感染予防のポスターを作り、各クラスや廊下に掲示しました。子ども達は、4つの約束以外にも“色々な所を触らないよ”や“小さな声で歌おう”等自分達でも標語を考え、ポスター作りを楽しんでいました。掲示したクラスの保育士からは、「小さい子もお兄さん、お姉さんの作ってくれたポスターを見て、手洗いしているよ。ありがとう。」と言ってもらいとても喜んでいました。

そして次に行ったのが、正しい手洗い方法とマスクの着用の仕方、感染予防についての3つ

の動画作成でした。本来ならば、年長が縦割り保育などで年下の子に教える機会を作りたいのですが、他クラスとの交流も出来なくなった為、動画で発信していこうという取り組みを考えました。手洗い動画では、子ども達が園児役と保育者役になり、歌に合わせて正しい手洗いを披露しました。マスク動画では、マスクの正しい付け方と正しくない付け方を映し、○×で分かりやすく説明しました。また、感染予防の動画についても、楽しく理解してもらえるように音楽に合わせて作りました。撮影時の子ども達は、恥ずかしがりながらも、「手洗いの順番を間違えないようにしようね。」「小さい子が分かりやすいように大きく動いた方がいいんじゃないかな。」と張り切って取り組んでいました。動画が完成し、まずは、年長クラスのみホールにて試写会を行いました。大きなスクリーンに映った姿を見て、嬉しそうにしたり、恥ずかしがったりと様子は様々。また、友だちと一緒に映る場面では、出演した友だちと顔を見合わせて笑い合ったりと心弾ませて見ていました。そして、当初のねらいでもあった年下のクラスでの上映会でも、お兄さんお姉さんの動画を見て、「私もやってみよう。」と普段よりも丁寧に行っていたようです。

新型コロナウイルスの収束は未だ見通しの立たない状態にあり、今後も保育の中で制限や変更をせざるを得ないこともあると思います。あれも出来ない、これも出来ないと諦めるのではなく、職員間の連携を持ってレジリエンスを高め合い、子ども達が楽しく安全に過ごせる工夫を今後も考え、取り組んでいきたいと思っています。



コロナ禍における感染対策と行事

園長 荒井 隆夫

新型コロナウイルス感染が発生してから1年が経過いたしました。長期にわたる自粛生活は、様々な面で我慢の日々となっておりますが、このような状況下でも利用者の健康と当たり前の日常を守るため、これまでどのような感染対策をとってきたのか、そしてどんな生活を送ってきたのか、その一端をご紹介させて頂きたいと思っております。

さやま園は、知的に障害のある方が96名生活しており、そのうち65歳以上の方の割合は約41%となっております。殆どの方が何らかの疾患を持っており、マスクは当初から不織布の使用を徹底し、午前と午後の2度の検温（利用者・職員）、出勤時のうがい・手洗い、換気の励行、看護師を中心とした職員全員へのガウンテクニックの演習など、様々な対策をとってきました。その中でもさらにお伝えしたいのは、昭島病院の協力を得た感染症対策の講義と施設内感染に備えた障害系グループ間の職員の派遣です。沢山の職員の方がさやま園の業務に当たっていただき、本当に心強い応援でした。ありがとうございました。

利用者の生活においては、コロナ禍においても窮屈な生活とならないように、年間計画していた行事は何一つ取りやめることなく実施してきました。3密を避けるための職員の工夫とアイデアで、思っていた以上に楽しく新しいイベントとなりました。

その中のいくつかをご紹介させていただきます。さやま園祭は地域の皆様と一緒に楽しむ行事として行ってきましたが、開催日が10月という事もあり、テーマをハロウィンに変え、みんな思い思いに仮装し、キャラクターとともにインスタントカメラで一緒に写真を撮りました。自由気ままな利用者にとだけ決めポーズの写真が撮れるか、みんな必死で笑いがこぼれます。

もう一つは、さやま神社です。年末年始に帰宅できる方が少なくなり、昨年度職員の発案で多目的ホールに神社を作りました。今年は行事としてさらにバージョンアップさせ、人がくぐれる鳥居を設置し、賽銭箱にはお賽銭を入れ、



鈴を鳴らしてお願いごとをしました。おみくじを引いて今年の運勢も占い、神主さんにはお祓いしてもらい、巫女さんからは甘酒をふるまってもらいました。（幸運地蔵もいます）

新年会では、なかなか見ることが出来ない獅子舞も登場し、頭をかまれて泣き出してしまう方もいました。餅つきは、餅ではなく白のへりを打ってしまう方もいましたが、つきたい人が列をなし、全員が楽しむことが出来ました。

家族の皆様には、利用者の皆さんが元気で生活している様子（行事など）を写真に撮り、感染防止対策のお願いのお知らせとともに送らせて頂きました。ご家族からは感謝のお手紙とともにねぎらいの言葉を頂き、本当に嬉しく思います。

医療従事者からのワクチン接種が始まりましたが、しばらくは今の生活が続きます。今後も生活を楽しみながら新たな形を模索していきたいと思っております。



社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 令和2年度永年勤続表彰

令和2年度 永年勤続表彰式が令和2年10月6日火曜日にとりおこなわれました。今回はコロナ対策の一環として、昭和郷のさくらホール 原町の地域交流室のニヶ所にわかれて式典を催しました。



■ 30年 永年勤続を迎えて



みなと保育園
主任 武田 朋子

私が保育士の資格を取得した時は、自分の力不足もありましたが、保育園就職は狭き門でした。初めは学校の紹介で東京都同胞援護会のみなと保育園の非常勤職員でした。当時は時給も低く、生活するために別のアルバイトも同時に行っていたこともありましたが、それでも、若さもあつたと思いますが、保育園の子ども達の可愛さ、先輩方の温かいご指導により、毎日が楽しくやりがいを感じ、「ここで働きたい」と思っていました。願いが叶い、途中採用をして頂き今に至ります。

30年を改めて思い返してみると様々な出会いと別れ、楽しかったこと、苦しかったことなど思い出されます。今思うと、全てのことに私は人に支えられ、助けられて今があると感じています。

14年6カ月目でみなと保育園から同援みどり保育園へ異動になりました。通勤時間も長くなり、毎日家に着く頃には日が暮れて真っ暗でしたが、私にとって、少しずつ自分が責任ある立場になっていく大切な時期を過ごした思い出深い場所となりました。ここでも13年間と長い時期でしたが、沢山の経験を通して学んでいくにはちょうど良い長さだったと私自身は思っています。特に人や地域との信頼関係や繋がりを作るには時間をかけていくことの大切さを学ぶことが出来ました。良い事だけではなく、自分にとってこの仕事を「辞めたい」と思うような出来事が起き、人との繋がりによって傷ついたりすることもありました。ある

程度自分が責任ある立場になっていたので「人前では平常心を」と思っていたのですが、体は嘘をつかず、ある時、自分の頭に大きな十円剥げが出来ていました。しかし、園長先生や職員の方々に親身に関わっていただき立ち直ることが出来ました。さまざまな経験はまだありますが、自分が今あるのは周りで支えてくれた人でした。そんな中で自分の考え方や、人や物を見る目線や捉え方なども変わっていくのを感じました。そして、そのような時に同援さくら保育園に異動になりました。ここでは一時保育や、休日保育、病後児保育も行っており、覚えることもたくさんありましたが、感心したことは、その中で働いている職員は、一時保育、休日保育などの対応や受付を保育士がしっかりと担当し、連携を取って行っていました。今回の異動では自分は今主任の立場だったので、新しい環境の中で甘えてられないという気持ちで必死でしたが、やはりここでも園長先生や周りの職員の方々が支えてくださったことを思い出します。

そして現在、みなと保育園に異動して3年目になろうとしています。巡り巡って勤め始めたみなと保育園で勤続30年目を迎えられたことにご縁を感じます。これまで支えて頂いた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今後は支えられるばかりではなく、周りの人を支えていけるよう日々精進していき、感謝の気持ちを返していけたらと思います。ありがとうございました。



入職時の武田さん

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|------------------|------------------|------------------|----------------|----------------|------------------|----------------|---------------|--------------------|-----------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|------------------|-------------|---------------|--------------|--------------------------|
| 山崎 藍 (昭島病院) | 菅原 一枝 (昭島病院) | 鈴木 優子 (昭島病院) | 白坂 理佐 (昭島病院) | 鈴木 明子 (昭島病院) | 薄田としよ (昭島病院) | 富口多美子 (昭島病院) | 松田 明德 (事務局企画部) | 岡部 光良 (双葉園) | 竹高圭一郎 (同援さくら保育園) | 小澤 崇之 (同援さくら保育園) | 清水 尚美 (同援さくら保育園) | 金本 美佳 (みなと保育園) | 甲斐 千佳 (みなと保育園) | 齋藤 昌子 (昭和郷第二保育園) | 高橋 友美 (昭和郷保育園) | 佐藤 悟 (昭和郷保育園) | 本村 隆浩 (さいわい福祉センター) | 栗原 好史 (豊島区西部障害支援センター) | 白井 慶祐 (さくらんぼ) | 道家 朋子 (小茂根福祉園) | 三瓶 弘毅 (小茂根福祉園) | 茂木まどか (小茂根福祉園) | 長瀬ひかる (東村山生活実習所) | 武田 康利 (昭島荘) | 伊藤 華恵 (サンホーム) | 高橋 法子 (ゆたか苑) | 峰 真理子 (原町小規模多機能居宅介護センター) |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|------------------|------------------|------------------|----------------|----------------|------------------|----------------|---------------|--------------------|-----------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|------------------|-------------|---------------|--------------|--------------------------|

■ 20年 永続勤続を迎えて



榎町高齢者総合相談センター
岩木 勝範

私は、特養の介護職として同援に入職しました。入職の理由は、前職の営業が上手いかず転職先を探した所、介護業界は今後高齢者が増えるから仕事に困らないだろうし、自宅から近いこの施設がいいだろうという、実に安直なものでした。実際に働いてみて、最初は認知症や身体が不自由な方のご様子や職員の対応等にカルチャーショックを感じながらも、営業と違い仕事を取りに行く必要がないし、仕事だから当たり前なのに「ありがとう」と言ってもらえる、何ていい仕事だと安易に考えていました。ところが、人生の大先輩であるご高齢の方々と接し、その豊富な人生経験に触れていく中で、通り一辺倒ではなくその人その時々合った千差万別な対応が必要な仕事だと痛感し、そのためには自分も成長していかなければいけない、大変だがやりがいのある仕事だと思えるようになりました。

その後デイサービスの相談員を経て、現在は地域包括の相談員として働いています。仕事の内容も変わり色々な事を経験する中で見えてくることもあります。慣れが惰性に変わり、当初感じていた大切な思いを忘れそうになり、本当に自分は成長できているのかと疑問に感じる時もあります。そんな時、一代で大きな会社を築いたというある利用者様から、「一つの事を習得していくには辛抱が必要で、長い過程の中で寄り道をしてしまったりスランプに陥ってしまうこともある。そんな中でも試行錯誤の上改善していき、成功体験を頭・身体・心に刻みつけていく。それを積み重ねていくことで少しずつ大きな力になるものだ。」という趣旨のお言葉を頂いたことを思い出します。

このように、今まで同援で接してきたご高齢の方には、年長者として尊敬できる方が多く、支援させて頂きながらも、時にはこちらが勇気を頂きます。未熟な私ですが、地域や利用者の方のため少しでも貢献していけるよう精進して参ります。

■ 10年 永年勤続を迎えて



双葉園 岡部 光良

平成18年3月、サンライズ青山に非常勤母子指導員として入職し、正規転換や法人内異動を経て勤続10年を迎えました。今、目を閉じてても感謝の気持ちしかありません。上司や先輩、同僚や後輩、利用者の方々、施設に関わる多くの皆様に温かく支えて頂きながら、「人と人が支え合うこと」「人の人生に寄り添うこと」「福祉は人であること」など、福祉の本質の多くを学び得てきました。東日本大震災の際には、当時の上司の的確な判断や対応を目の当たりにし、生命の尊さを強く感じた記憶は今でも鮮明に残っています。肌で感じる体験学習を通し得られた経験やノウハウを自施設や地域社会に多少なりとも還元できるようにと日々努めてきましたが、口惜しいことに未だ活かし切れていないように思えます。今後も東京都同胞援護会の一員として、これまで同様、感謝の気持ちを沢山の皆様に還元していけるよう精進していきたいと思っております。



東村山生活実習所 長瀬 ひかる

平成22年4月より、東村山生活実習所で生活支援員として10年間勤めさせていただきました。学生時代は保育士を志し、学校の勉強も保育を履修し、保育士、幼稚園の資格を取得しました。その後保育分野ではなく重度知的障害者施設で働くことになり、不安の中にいた事を覚えています。そして気づけば古株といわれるほどの年月を、障害者支援に携わることになりました。新人や実習生を育成する立場になるとは、当時の自分には想像もつかなかったことと思います。この10年の中で結婚、出産、育児を経験し、昨年度から時短職員として仕事復帰をさせていただきました。新たに職員としての目線、親としての目線を知り、仕事や育児を両立していく事の大変さは自分が思っていたよりもずっと大きいものでしたが、自分一人の力では成し得なかった事も沢山ありました。振り返ると人との出会いの中での気づきや、別れも沢山経験させていただき、何より利用者の方たちから学ぶことが多い10年間でした。その経験を活かし、次世代に伝えていけるよう今後も努力して参りたいと思っております、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

- 10年
- 市川 勝弘 (ニューフジホーム)
 - 永畑 絵理 (ニューフジホーム)
 - 高木 直輝 (原町ホーム)
 - 滝沢 萌 (原町ホーム)
 - 長嶋 裕子 (原町ホーム)

- 長田 絵美 (同援はいじま保育園)
- 有馬 麻耶 (大山保育園)
- 岡部 暁子 (むさしの保育園)
- 杉浦慎一朗 (東村山生活実習所)
- 岩田 輝子 (昭島荘)
- 高橋 悦子 (ひかり苑)
- 岩木 勝範 (新宿区榎町高齢者総合相談センター)

- 20年
- 小金澤康哲 (フジホーム)
 - 山口 慎二 (万世敬老園)
 - 三瓶 達矢 (さやま園)
 - 小出 裕司 (ニューフジホーム)
 - 山崎 晴子 (昭和郷訪問介護センター)

- 30年
- 唐澤江里子 (むさしの保育園)
 - 井坪 朋子 (昭和郷第二保育園)
 - 武田 朋子 (みなと保育園)
 - 吉田 潤子 (昭島荘)

表彰者の方々

コロナ禍における影響と その中でホッとしたこと

同援さくら保育園

副園長 清水 尚美

コロナ禍のこの時代、実施できなかつたり、規模を縮小して行った行事（誕生会、発表会、祖父母の日お祝い会など）が数多くあります。特に運動会は日々、子どもたちが取り組んできた成長を発表する場です。保護者が楽しみにしているのは、勿論ですが、何よりも子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。職員も何とかして子どもたちの成長した姿を保護者の皆様に見せてあげたいという考えました。例年は小学校、中学校の校庭や体育館を借りて全クラス一斉に行っています。ただ、校庭を借りるとなると学校に迷惑がかかるのではないかと……、密になってしまうのではないかと……と試行錯誤の末、今年は「園庭を活かしてクラスごとに時間を短縮して行ってはどうか。」という話になりました。ところが問題となったのは雨天時です。休日保育を実施している当園では順延ということは難しく、ここでまた、悩みました。結果、雨天時は5歳児のみ園内で種目を減らして実施しようということになりました。乳児クラスは日々の保育の中で運動会ごっことして楽しみ、幼児クラスのみ各家庭2名までと人数の制限を

して幼児クラスのみ園庭で実施しました。前日まで天気不安定で、当日もあまりいいお天気ではありませんでしたが、何とか園庭で開催することが出来ました。子どもたちも思い切り体を動かし、成長した姿を見て頂くことができました。保護者の方からも、「子どもの生き生きとした姿を間近で見ることが出来てよかった」など良い意見も多数いただきました。工夫次第でいろいろなことに取り組むことが出来る良い機会となりました。令和3年度も模索は続きます……。



特別養護老人ホーム ゆたか苑

園長 薄井 正和

一昨年末より中国・武漢を発端に全世界で猛威を振るっている『新型コロナウィルス』ゆたか苑では昨年2月より感染予防対策としてご理解・ご協力のもと、ボランティア活動休止、ご家族面会も感染状況を鑑みながらパーティションを用いたり、テレビ電話面会に切り替えたりと試行錯誤しつつ、現在はご自宅と施設を繋ぐオンライン面会を模索しています。

その様な状況の中、保育支援系グループの皆様から手作りのマスクやフェイスシールドのご支援をいただきました。手作りマスクは職員に配布、私も気に入りの一つを愛用させていただいています。また衛生資材不足が深刻な折、ご家族やボランティアよりマスクや消毒液等のご寄贈を賜りました。『ソーシャルディスタンス』が感染予防の有効手段ですが、物理的に距離は離れていても、やはり人は人と繋がっているのだなと改めて感じるとともに皆様より心温まるメッセージを頂戴して大変勇気づけられました。この場を借りて感謝申し上げます。

最近、コロナ禍を理由に退職者が増えていると

耳にします。日々、『ご利用者の生活を守る。』という緊張感で精神的負担も大きく、ストレスも相当なものと思われれます。しかし、その様な中でもゆたか苑職員は誰一人として欠ける者はなく、ご利用者の生活を支えていただいていることに敬意を表するとともに『(コロナに)罹らない。持ち込まない。』を合言葉に職員一丸となってこの苦境を乗り越えていきたいと思ひます。



救護施設 昭島荘

主任生活指導員 茂木 貴之

「園長さん これどうしよう？」女性利用者のSさんが、とても大きな手編みのセーターを持ってきました。寸法を間違え大きく作ってしまったとのこと。Sさんは編み物が趣味で、そのセーターもこのコロナ禍で外出自粛、外注作業の激減等で、空いた時間で編み上げたものであった。施設長はほどこいてもう一度編むことを提案したが、折角編んだ物をほどくのは嫌だとSさん。誰か着てくれる人がいればとのことであったが、そんなに大きな人は当施設にはおらず、施設長はそのセーターをとりあえず預かることにしました。施設長は皆に見える所に飾ろうかと話していましたが、そのままになっていました。

ある日の利用者定例会で、そのセーターを着て施設長は登場しました。見た目はポンチョのよう。それを見た利用者の反応は様々で、驚いた表情をしている方もいれば、くすりと笑う方等、その中に、とても嬉しそうに笑顔を浮かべているSさんがいました。とても素敵なセーターのお披露目と

なりました。

その後も施設長は度々、そのセーターを着ており、今では見慣れた風景です。

ここで当施設にお越しの方へ

施設長が大きなセーターを着ている姿を見かける事があるかもしれませんが、そのような事情です。ご承知おきくださいませ。



心身障害者福祉ホーム さくらんぼ

生活支援員 日高 広大

今年度は世の中が大きく変わった一年になったと思います。毎年11月に行っている「さくらんぼ祭」も今年度は感染症対策を踏まえたうえで、どのように開催できるか職員で何度も話ってきました。そして、最終的に「直接会うのがダメならリモートで『オンラインフェスさくらんぼ2020』と行事名も心機一転変更し開催をしてみよう！」ということになりました。さくらんぼ祭は例年200人以上の来場者が来るイベントですが、感染症予防の観点から当日の参加者はリモートで参加が可能な一部の方にさせていただきました。

新たな挑戦のため、機材の準備やリモートでの接続を試行錯誤しながらも、当日を迎えることができ、親交のある他法人のグループホームにもご協力頂き、リモートの中継先としました。

また、できるだけさくらんぼを利用する多くの利用者に関わって頂きたいと考え、利用者との交流動画を作成し、当日作品として発表しました。その他、昨年もさくらんぼ祭りに参加したラッパーのマチューデフさんも参加し、利用者の気持ちを歌にした新曲「リモ音さくらんぼ」の披露やゲー

ムなど行いました。利用者の皆さんも画面越しに盛り上がり、リモートで久しぶりに会うことができ喜んでいました。

今回の行事を進める中で最初はどうかと思いましたが、職員から様々なアイデアが出てきたこと、職員が新しいことへの取り組みに対して楽しみながら行っている姿をみてさくらんぼなら今後どんなことでも乗り越えていけると感じました。コロナ禍でも安心し楽しめる企画を今後も考えていきたいです。



ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

ご寄付 ◇福原武洋◇石田一樹◇一般財団法人 日本児童養護施設財団◇株式会社イトーヨーカ堂各店 (15 店舗)

後援会 岩下昌康◇内田祥二◇川井文子◇平尾正二◇青木保之◇南雲栄一◇中村定徳◇青木薫◇中村健一◇宮澤民雄◇鮫島恭江◇矢部文子◇高仲智子◇山内悦◇磯野輝夫◇(有)肉の大高◇(有)海老山◇雪印メグミルク 下坪唱三◇(株)金祥堂紙販売◇昭和の森エリアサービス(株)スマイルケア昭和の森◇(有)いとう教材社 代表取締役 伊藤浄堯◇(株)ハーティーマネージメント 代表取締役 阿部博一◇(株)フソー 代表取締役 山田政宗◇おしゃれの店 ひらまつ 平松秀治◇田中青果店 田中潔◇(株)安江設計研究所 代表取締

役 安江知之◇(株)増田コーポレーション◇合資会社松野薬局 会長 松野榮仁◇(株)昭和造園◇浦野工業(株) 代表取締役 浦野静夫◇風間造園(株) 代表取締役 風間脩一◇(有)三ツ矢◇(有)まゆみ書房 代表取締役 櫻岡ユリ◇昭島ガス(株)◇(株)ケイエス機材◇東京冷機工業(株)◇(株)五嶋造園 代表取締役 五嶋政吉◇(株)木の里工房木薫◇唐沢電機(株)◇(株)コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇創洋紙商事(株) 代表取締役 中屋守敏◇(株)豊明◇加藤商事(株) 代表取締役 加藤宣行◇NPO 法人日本幼児健康体育協会 代表 池田美央◇(株)ショーワ◇戸山商事(株)◇(株)葉袋造園◇(福)村山苑◇(株)サン・ホワイト◇(株)石塚家具店◇(有)アタック 代表取締役 大澤茂◇(株)金井商店 代表取締役 金井務

祝

表彰・感謝状
受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が表彰されました。
おめでとうございます。

【東京都社会福祉協議会会長表彰】

- さやま園
副園長 柿木 崇
生活支援員 西川 志江
生活支援員 藤原 綾子

【東京都社会福祉大会知事感謝状】

- さいわい福祉センター
事務員 長利 浩文

【東京都社会福祉協議会会長感謝状】

- ひかり苑
看護師 高橋 悦子
- さやま園
副園長 三瓶 達矢
生活支援員 マヌワー美奈子
- ゆたか苑
介護職員 後藤 正和
- 昭島荘
栄養士 岩田 輝子

資格取得のご紹介

次の方が資格取得しました。
日頃の業務に活かし、ご活躍を期待します。

■ 社会福祉士

昭島荘
介護職員 松本 宗一

雑感

新型コロナウイルス感染症が中国で確認され、その後まもなく日本でも発症を確認。1年以上もたったところですが、終息には至っていません。少し悲観的な見方をすると、これからはしばらくはこうした状況が続き、未来が見えてこないというのが、今の心境です。会食の時の黙食や人との接触を極力しない、移動の自由の制限などまだまだ続きそうです。こうした中、新しい生活スタイルを工夫して、少しでも楽しく、また人とのコミュニケーションをとっていくこと、人のぬくもりを感じながら仕事をしてきた私たちにとってとても大事なところ。私たちが携わっている「福祉」の現場では、最先端の工夫が今求められていると感じています。

さいわい福祉センター 飯島 記

発行者 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <http://www.doen.jp/>

印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和3年3月31日 発行

